Hokkaido University
Frontier Foundation

北大フロンティア基金
活動報告書

令和7年度

北海道大学

CONTENTS

目 次

02 総長挨拶

03 こども本の森事業

05 古河講堂の改修・利活用事業

07 北大・エア・ウォーター協働教育研究支援プログラム

09 半導体人材育成支援基金
高度半導体人材海外渡航助成事業

10 仲間と共に紡いだ音楽で、勇気と感動を届けたい！
～北大交響楽団～

11 北海道大学
創基150周年お祝い＆応援メッセージ

13 北大フロンティア基金
令和7年度の概要

15 創基150周年記念募金

17 支援事業一覧

19 クラウドファンディング

21 寄附申込方法

22 税制上の優遇措置

23 遺贈について

24 寄附者の皆様への御礼

150年の知を未来へ
～北海道大学の使命

北海道大学総長 寶金清博

平素より北海道大学の教育・研究活動を支える「北大フロンティア基金」に深いご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

このたび、令和7年度の北大フロンティア基金の活動報告書を取りまとめました。本報告書では、皆様からのご支援によって実現した多様な取り組みをご紹介しております。本学の教育・研究の一端をご覧いただければ幸いです。

令和８（2026）年に本学は創基150周年という大きな節目を迎えました。北大フロンティア基金ではこの節目に合わせ、令和5年度～令和8年度までの4年間、「創基150周年記念募金」に取り組んでおります。

令和7年度はその3年目にあたり、皆様から約34.4億円のご支援をお寄せいただきました。令和8（2026）年3月末には、卒業生、学生の保護者、企業・団体、篤志家、地域住民をはじめとするステークホルダーの皆様のお力により寄附額が50億円に到達し、目標額を達成することができました。改めまして、深く感謝申し上げます。

明治9（1876）年に札幌農学校として開校した本学は、W.S.クラーク博士の意思を受け継ぎ、日本の基幹大学として、広大かつ多様なフィールドを活かした教育・研究を展開することで、他に類を見ない個性を形成してきました。令和8（2026）年6月に発表となりました「THEインパクトランキング2026」において、世界総合7位、国内1位（7年連続）という評価を受け、本学の教育・研究、そして社会連携の取り組みが、国際的にも高く評価されていることが示されました。

150年前に札幌農学校が寒冷地農業というテーマに挑戦し始めて以来、SDGs・サステイナビリティへの取り組みは、本学の歴史そのものです。最近では、GX（グリーントランスフォーメーション）やJ-PEAKSをはじめとする教育・研究・地域共創の取り組みを通じ、脱炭素社会の実現とイノベーション創出に力を注いでいます。150年の歩みを礎に、持続可能な社会を次世代へ確かな形で引き継ぐため、本学は今後も挑戦を進めてまいります。そのためには、強固な財務基盤の確立が不可欠であり、将来的に記念募金の母体である北大フロンティア基金を真のエンダウメント型基金へと拡充することを目指しております。

創基150年目の「Second Ambitious Challenge」に挑戦する北海道大学に対し、引き続き皆様からの温かく、そして力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

01
こども本の森
事業

北海道大学副学長 附属図書館長・文学研究院特任教授
山本 文彦 特任教授
専門分野はドイツ中世・近世史。
著書に『神聖ローマ帝国――「弱体なる大国」の実像』
（中央公論新社）など。

国内6館目の「本の森」安藤忠雄氏の想い

「こども本の森」は、世界的な建築家である安藤忠雄氏が設計・建設費を負担し、自治体等へ寄附している子ども向け図書施設です。

正門・南門からも近く、窓からは中央ローンを流れるサクシュコトニ川が見渡せる

近年、子どもの読書離れが進むなか、安藤氏は「こどもたちに多様な本を手に取ってもらい、無限の想像力や好奇心を育んでほしい」「自発的に本の中の言葉や感情、アイデアに触れ、世界には自分と違う人や暮らしがあることを知ってほしい」との想いのもと、これまで国内５か所に同施設を寄贈してきました。その６館目として、札幌キャンパス内への同施設寄贈のご提案を安藤氏からいただきました。安藤氏の想いは、本学が目指す次代を担う人材の育成や未来社会への貢献とも合致することから、創基150周年事業の一つとしてありがたくご寄附をお受けすることなりました。本施設は「こども本の森 札幌・北大」と名付けられ、2026年8月1日に開館の日を迎えました。

“大学の「知」をこどもたちにひらく”
2026年夏、「こども本の森 札幌・北大」開館。

個性豊かな「森びと」たちがこどもたちのためにできること

本施設にはいくつかの特徴があります。一つ目は、貸出を行わないこと。これは、訪れた子どもたちがいつでも新たな本と出会える場をつくる仕掛けの一つです。二つ目は、独自のテーマに基づいて図書を配架していること。「北海道で生きる」「学ぶことの可能性」など14のテーマごとに本が並んでおり、普段手にとる機会の少ない本との新たな出会いを生み出しています。三つ目は、自然との共生をコンセプトとしていること。本施設は札幌キャンパスの憩いのスポットである中央ローンの南側に位置しており、館内からは四季折々の自然が一望できます。まるで森の中で読書しているかのような心地よい空間です。そして四つ目は、大学の中にある子ども向け図書館であること。本施設は「こどもに知をひらく」をコンセプトに掲げています。わたしたちは、自然豊かなキャンパス全体を大きな「知の森」、そこで過ごすたくさんの研究者や学生たちを個性豊かな「森びと」ととらえ、こどもたちとの交流の機会を創出したいと考えました。その具体的な取組として、北大やその研究を紹介する本棚「知の森へ in 北大」、教員がお薦めする本を紹介する本棚「まなびの窓」を設置しています。さらに、研究者や学生が自らの研究テーマを紹介する「学びのプログラム」も実施しています。

館内には大木を思わせる本棚が並ぶ

8月には、本学埋蔵文化財調査センターの協力のもと、レクチャートークと発掘現場見学会を開催しました。考古学という「知」の奥深さや、そのおもしろさの一端を子どもたちに伝えられたのではないかと考えています。

埋蔵文化財調査センターとの共催イベントの様子

大切な場所での取り組みを豊かに育んでいくために

これらの取組や、読書に没入できる館内環境の整備には、フロンティア基金によるご支援を活用しています。また、本施設における活動をより多くの方に知っていただくため、クラウドファンディングにも挑戦しました。目標金額の500万円を大きく上回るご支援と、多数の温かい応援メッセージを頂戴することができました。ご寄附をお寄せくださった皆様に、改めて心より御礼申し上げます。皆様からのご支援と応援は、私たちの活動を支える大きな力であるとともに、本施設を訪れる子どもたちへのご支援でもあります。ここで知に触れ、好奇心や創造力の芽を大きく伸ばした子どもたちは、これからの社会を支え発展させる存在となっていくことでしょう。今後とも「こども本の森 札幌・北大」の活動にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

こども本の森事業への寄附はこちらから ▶

02
古河講堂の改修・
利活用事業

歴史を知り、未来を語る場所へ

札幌農学校から帝国大学へ
節目を象徴する白亜の建築

北海道大学の前身である札幌農学校のキャンパスは、明治36（1903）年に現在の札幌時計台付近から現在の札幌キャンパスの南端に移転されました。

講堂内の随所に林学教室の「林」を表す意匠が見られる。

札幌農学校は、明治39（1906）年に古河家から施設整備費の寄附を受け、校舎建設の予算が確保されたことにより、大学に昇格した歴史があります。古河講堂は、キャンパス移転後の明治42（1909）年に林学教室として建てられました。その後、創基50周年となる大正15(1926)年にはその向かいにクラーク博士の胸像も建立されました。キャンパスの移転、そして札幌農学校から帝国大学への昇格……北海道大学の大切な節目の時期に建築された古河講堂は、国の登録有形文化財に登録されており、日本の大学史においても大変重要な存在です。

古河講堂の改修・
利活用事業への寄附はこちらから▶

災害に強い未来社会への第一歩
～これからの150年を見据えて

昭和29（1954）年に林学教室が農学部本館に移転した後も、古河講堂は教養部の講義室や文学部の研究室として、北大の学びを支えてきました。しかし、築117年を経て老朽化と耐震性能の問題で、現在は利用できなくなっています。そして、近年、自然災害は巨大化・複合化し、地震・豪雨・台風などが頻発しています。予測困難な被害が人々の暮らしを脅かす中、備えと共助の重要性を改めて認識する必要があります。

古河講堂が建築された明治期、日本は高温多湿の気候と度重なる水害に悩まされ、「砂防工学」が国土保全の要として発展しました。その歴史を鑑み、北海道大学創基150周年という新たな節目で、わたしたちは古河講堂を「広域複合災害研究拠点」として再生させる計画を進めています。北海道の農林水産業、暮らし、経済・物流の基盤を強靭化し、安全・安心な流域圏を創出することは、日本全体の安全と安心を支えることに繋がります。歴史を知り、未来を語る場所へ……150年の歩みを振り返りながら、次の150年をより良いものにするために、北海道大学の挑戦を温かく見守っていただけますと幸いです。

支援者の方からメッセージをいただきました。

石山 喬 様

Profile　1967年工学部卒、日本軽金属ホールディングス株式会社 元相談役

私は昭和38年に北大に入学しました。その時は新しい教養棟は建設中であり、私達新入生は古河講堂を中心とした他の古い４棟の教室で授業を受けました。このころの授業の記憶は定かではありませんが、古河講堂の玄関を上り中に入って行く時には、歴史ある北大に入学したのだという自負のような思いを抱きました。授業の合間には学友達とクラーク像の横を通り、中央ローンに座って、古河講堂を見ながら寮歌、都ぞ弥生、津軽の海を覚えました。今でも都ぞ弥生は学友達と肩を組み年数回は歌っております。卒業し就職した先は古河グループの会社で、古河講堂とその周囲の教室が古河家の寄進で建てられたことを知り不思議な縁を感じました。常に故郷の家のような感覚を抱き、札幌に行き北大を訪れる度に講堂を見上げておりました。このたびの改修計画を知り大変うれしく思っています。多くの一般の人達が訪れ、北大の歴史を知る場所になる事を願っています。

撮影：寺島博美

長沼 昭夫 様

Profile　1972年水産学部卒、きのとや創業者、
北海道コンフェクトグループ株式会社 取締役会長

私は昭和43年(1968年)4月、水産学部に入学した。入学後すぐに体育会山スキー部に入部。当時は、過激派による学生運動が激しく、教養部の授業はほとんど無く、大学に来ても古河講堂の裏手にあった山スキー部の部室に入り浸っていた。当時の古河講堂は築60年経っても、凛として美しく光り輝いていた。先日、久しぶりに部室があった跡、そしてさらに60年近く経った最近の古河講堂の姿を見て感慨深い想いがあった。古河講堂が改修により蘇り、札幌農学校精神がいつまでも引き継がれる事を心から願っている。

栗原 淳一 様

Profile　一般財団法人砂防・地すべり技術センター理事長

北海道大学創基150周年、誠におめでとうございます。今後の日本の防災のキーワードは、気候変動と複合災害、人口減少、そして巨大災害などです。最近の災害をみても、これらの現象や社会変化が、我が国の発展に大きく立ちはだかっていることが分かります。「古河講堂の改修・利活用事業」により、「広域複合災害研究拠点」が整備され、我が国の防災技術に寄与する先端研究がさらに進みますことを期待しております。

03

支援を受けた学生の声

Student's voice

矢﨑 美瑠佳さん

工学院2年。
北大・エア・ウォーター協働教育研究支援プログラム第1期生。
研究テーマは「蓄熱発電のためのマイクロ波加熱型蓄熱システムの開発」。

農業・食料、エネルギー分野の研究で社会実装を目指す！
北大・エア・ウォーター協働教育研究支援プログラム

若手研究者が研究に専念するために

北大・エア・ウォーター協働教育研究支援プログラムは、北海道大学とエア・ウォーター株式会社が2024年12月に締結した連携協定に基づき実施されています。給付型奨学金と研究費支援を組み合わせ、修士課程の2年間を通じて継続的な支援を行うことで、学生が研究に専念できる環境を整え、優秀な人材の育成と研究の質の向上を目指しています。本プログラムの第1期生である矢﨑美瑠佳さんにお話をお伺いしました。

2026年6月8日にエア・ウォーターの森で行われた
「研究進捗発表会」後の1期生の様子
左から環境科学院 松尾拓郎さん、工学院 矢﨑美瑠佳さん、
環境科学院 藪本大樹さん

人材育成事業への寄附はこちらから▶

企業独自の寄附プロジェクトをご希望の
場合は卒業生・基金室にご相談ください

Interview

ー 矢﨑さんの研究テーマと今後の展望について教えてください

私が所属する北海道大学大学院工学研究院附属 エネルギー・マテリアル融合領域研究センター エネルギーメディア変換材料研究室は、エネルギーを高密度に貯蔵、輸送し、高効率に変換するための材料開発、およびプロセス・システムの評価を行っています。現在、再生可能エネルギーの導入が急速に進む一方で、発電量の変動により生じた余剰電力は使い切れずに捨てられているのが現状です。その一方で、産業界の熱需要の多くは依然として化石燃料で賄われており、二酸化炭素の排出が深刻な社会問題となっています。こうした課題に対し、これまで捨てられていた電気や熱を効率的に貯蔵し、必要なときに必要な場所で利用できるシステムが求められています。そこで研究室では、次世代蓄熱材「h-MEPCM（Microencapsulated phase change materials）」の開発・研究を行っています。この材料は物質が固体から液体へと変化する際の潜熱を利用した蓄熱材料です。私は現在、この材料の熱特性の評価や、マイクロ波を用いた加熱挙動の解明に向けた研究を実施しています。今後は、マイクロ波を用いたMEPCMの熱特性や加熱機構をより詳細に解析し、どのような条件であれば蓄熱システムとして社会に適用できるのか、修士課程修了までにその適用可能性を明確にするところまでやり遂げたいと考えています。大学院の残りの時間で集中して悔いのないよう、自身のテーマについて検討を尽くす所存です。

蓄熱材料を手にインタビューを受ける矢﨑さん

ー「エア・ウォーターの森」での中間報告会はいかがでしたか

エア・ウォーター株式会社の方から「半年後の報告会が楽しみだ」とお声がけいただけたことが、今の大きな励みになっています。また、コワーキングスペースを利用させていただいているため、今後も積極的に活用し、学外の社会人の方々との対話を通して、自分の研究が社会にどう活きるのかをしっかりと意識して研究に取り組んでいきたいです。

蓄熱材料の熱特性評価に用いるDSC（示差走査熱量計）の
試料交換作業

ー 支援により叶ったことを教えてください

学部生の頃は、積み重なる貸与奨学金の返済に大きな不安を感じていましたが、手厚いご支援により精神的なゆとりが生まれました。平日夜や休日に充てていたアルバイトの日数を減らすことができた結果、専門領域にとどまらない多角的な活動に取り組むことができました。具体的には、学芸員資格取得に向けた博物館実習や、大学のプログラムでザンビアへの留学に挑戦することができました。また、研究室に配分された研究費を活用し、大阪で開催された国際学会に参加することも叶いました。今後も、関連する論文をしっかりと読み込んで専門知識を深め、日々の実験から得られるデータに一つ一つ真摯に向き合ってまいります。そうした地道な学びを重ねながら、原理の解明や蓄熱技術の開発といった研究課題に積極的に挑戦し、地に足をつけて着実に成長していきたいと考えております。改めまして、エア・ウォーター株式会社の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

04
支援を受けた学生の声
Student's voice

半導体人材育成支援基金
高度半導体人材海外渡航助成事業

情報科学院情報科学専攻博士後期課程1年
松野 史門さん

【渡航先】
◎ Interuniversity Microelectronics Centre（imec）
ベルギーの最先端ナノエレクトロニクス研究機関

◎ OnePlanet Research Centre
imecと、農業・食・健康のトップ機関が共同で設立した人々の健康と持続可能な社会の実現を目指すオランダの研究機関

【渡航期間】
2025.
9/1～11/29

自身の研究テーマの応用先を求めグローバルな環境で研究に挑戦

近年、ヨーロッパを中心に農業由来の窒素化合物排出が深刻な環境問題として捉えられています。特に、肥料を撒くタイミングで排出量が増え、自然環境への悪影響が懸念されています。そうした問題に対応するため、オランダを拠点とするOnePlanet Research Centreは低コストで設置しやすい環境モニタリングシステムの実現を目指し、各地で窒素化合物排出量の測定を行っていました。しかし、測定結果にはノイズや経年劣化、測定環境依存性といった問題が含まれており、そのままでは信頼できる濃度推定が困難でした。
私の研究テーマは、ニューラルネットワークの一種であるリザバーコンピューティング（以下、RC）です。

窒素化合物計測を行うセンサー「NitroSense」と、滞在先の様子

RCは時系列データ処理に強く、単なる瞬間的な測定値ではなく、環境中の窒素動態を反映した"動的な表現"を比較的低コストで実装できる点が特徴です。「RCの応用先を探していた私」と「センサーの計測精度向上を目指す現地チーム」のニーズが合致し、共同で研究に挑戦することになりました。

今回の研究成果と、今後の更なる発展に向けて

渡航前からオンラインで打ち合わせを行っていましたが、リアルタイムで意思疎通が難しかったり、ニュアンスが伝わりにくい場面もありました。しかし、現地でホワイトボードを使いながら議論できるようになると、情報のやり取りのスピードが格段に上がりました。私の英語はつたない部分もありましたが、現地の方々はとても親切で、真摯に耳を傾けてくださり、安心して議論を重ねることができました。もちろん、検証はまだ十分ではなく、ちょうど"良い手応えが見えてきた"ところで帰国となりましたが、今後につながる基盤が整ったと感じています。研究成果をさらに発展させられるよう、今後も尽力してまいります。半導体人材育成支援基金を通じてご支援くださいました関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

半導体人材育成支援基金への寄附はこちらから ▶

05
支援を受けた学生の声
Student's voice

仲間と共に紡いだ音楽で、勇気と感動を届けたい！
～北大交響楽団～

北海道大学交響楽団
岡本 みなみさん
（右から2人目）法学部4年
交響楽団ではバイオリンを担当

第150回記念定期演奏会を終えて

北海道大学交響楽団は創団105年目の歴史を持つ学生オーケストラです。2025年11月に大きな節目となる第150回記念定期演奏会を開催するにあたり、下野竜也先生を客演指揮としてお呼びし、学生オーケストラとしては大きな挑戦となるマーラーの交響曲第5番を中心としたプログラムを企画しました。しかし、演奏会の企画運営から楽器運搬、広報まで、すべてを学生自身の力で担っているため、費用面での負担が大きな課題でした。そこで、目標金額150万円を掲げてご支援をお願いしたところ、多くの皆様から温かいお気持ちをいただき、最終的に300万円を超えるご寄附が集まりました。当日は多くのお客様にご来場いただき、団員一同、練習の成果を存分に発揮した演奏を披露することができました。また、今回の演奏会は、団員一人ひとりにとって、技術面はもちろん、仲間と音楽を創り上げる過程においても大きな学びと成長の機会となりました。

2025年11月3日に札幌コンサートホールKitara大ホールで開催された第150回記念定期演奏会の様子

これからの北海道大学交響楽団

今回得た経験を糧に、創基150周年式典の記念コンサートや秋の第152回定期演奏会をはじめとする定期演奏会で、当団の新たな歴史を多くの方に知っていただけるように、日々の練習や活動に励んでまいります。そして、今後も学生ならではの生き生きとした演奏でクラシック音楽の魅力を伝え、皆様に感動をお届けしていきたいと考えております。

ご支援いただいた皆様へ

今回のクラウドファンディングを通じて、当団の活動を多くの方々に応援いただいていることを改めて実感いたしました。北海道大学交響楽団への多大なるご支援とご声援を賜り、誠にありがとうございました。皆様のお気持ちが団員の励みとなり、記念すべき演奏会を成功に導く大きな力となりました。頂いたご支援は第150回記念定期演奏会の開催費用の一部として使用させていただいた他、今後の活動費として大切に活用させていただきます。改めまして心より御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北海道大学交響楽団への寄附はこちらから ▶

北海道大学 創基150周年 お祝い&応援メッセージ

加藤 元 様

子どもの頃、「動物のお医者さんになる」という大志を抱いた私は、当時、国立大学で唯一、獣医学部を擁する北海道大学への進学を決めました。馬が大好きだった私にとって多くの馬が暮らす北海道は憧れの地でもあり、北大では獣医学を学ぶ傍ら、乗馬や馬術にも親しみ、生涯の友にも多く恵まれるなど大いに学生生活を謳歌し、その後の人生にも大きな影響を与えてくれました。卒業し、獣医師の道を歩みながらも常に母校にも足を運び、94歳となった今もそのご縁は続いています。北海道大学は私の人生の原点であり、何よりの誇りです。母校から次代を担う優秀な獣医師が数多く育ち、日本の獣医療に貢献してほしいとの願いを込め、微力ながら「加藤元基金」も設立いたしました。創立150周年を心よりお祝い申し上げるとともに、北海道大学がこれからも世界に誇る学府として発展し続けることを祈念し、末永く応援してまいります。

Profile

1956年獣医学部卒、ダクタリ動物病院東京医療センター総合院長

加藤元様は令和8年8月5日にご逝去されました。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

横山 清 様

高校を卒業して二年間、炭鉱に就職したがエネルギー革命で転職已む無しと煩悶していた矢先に、友人の勧めで北大を受験しまぐれ当たりで合格したが、資金ゼロの環境で入学を諦めていました。『炭鉱夫が北大合格』という北海道新聞の小さな記事で職場同僚の激励も戴き、恵迪寮に入寮しアルバイトに明け暮れ、学業はそっちのけの学生生活でした。北大創基80周年が入学の年で、翌年は恵迪寮寮長に選ばれ、「都ぞ弥生」の歌碑建立に携わり、渡部教授と共に寄付金をお願いするため、各企業や団体を訪問したことを懐かしく思い出します。学部移行（水産学部）の直後に、北晨寮寮長に選任され、寮運営に苦労しましたが、卒業後から今日に至るスーパーマーケット経営の原点の一部かと思います。異才、多才の学生群、学問とは別に個人的に生活指導を頂いた諸先生、歴史に残る著名な大先輩に接する機会にも恵まれて狭い領域に閉じ籠っていた自分が、アンビシャスの片鱗を身につけられたのも、北海道大学あればこそと思っています。次なる150年のために、フロンティア基金にも貢献すべく努力を重ねる所存です。

Profile

1960年水産学部卒、株式会社アークス代表取締役会長・CEO

大槻 博 様

創基150周年、おめでとうございます。卒業して54年にもなりますが、当時の大学紛争での喧騒とした構内や部活（軽音楽クラブ）などの記憶が蘇ります。札幌生まれの身としては北大は故郷みたいなものでしょうか。多くの方との出会いがあり、いつも大きく包み込んでくれる温かさを感じます。これは卒業して初めて分かるところです。150年の多くの先人の思いが詰まった道産子北海道大学。創造的で挑戦的、唯一無二そして世界へ。ガンバレ！

Profile

1972年工学部卒、北海道ガス株式会社代表取締役会長

吉田 猛 様

札幌市で生まれ育った私は生粋の道産子です。卒業後は東京の会社に勤め、海外勤務を経験し、今も豊洲市場で働いています。学生時代を振り返ると、北大は極めて懐が深い大学だと改めて感じます。勉学に邁進するも良し、学生生活をエンジョイするも良し、全ての学生に「進む道」を示してくれる校風がありました。今でもそれは変わっていないと思います。広大なキャンパスを背景に、大きな視野を持った人間を育む環境が素晴らしいと思います。150周年を迎えた母校に感謝とともに心からの弥栄をお送りします。

Profile

1975年水産学部卒、築地魚市場株式会社代表取締役会長

川嶋 乃里子 様

創基150周年、心よりお祝い申し上げます。修学旅行で北の大地に魅せられて北大に入学し、漕艇部や学生運営の保育所で背伸びを重ねた学生時代。卒業後は医師として働きながら学童クラブの運営にも携わり、約30年前に湘南に移ってからはクルーザースクールや海外クルージングにも参加してきました。今も医療や介護の枠を超えた地域コミュニティ・ケアの育成を通じてソーシャルキャピタルを高めるという目標に向かって背伸びを続けていますが、思い返せばすべて北大時代に芽生えたもの。北大の益々のご発展を心より応援しております。

Profile

1981年医学部卒、かわしま神経内科クリニック院長

横山 オルガ 恒子 様

既に知名度の高かった北大のスラブ・ユーラシア研究センターの存在を知ったのはハーバードの助教時代、1980年でした。文系の研究所としてユーラシア地域全体の歴史と文化の深い知識を生み出してきたこのセンターは今年150年の誕生をめでたく迎えた北大の中で育まれ、その後も益々活発に活動してきました。20世紀初頭から国際情勢の渦中に発展したハルビンの研究の最前線にある事も満州生まれの自分としては見逃せません。スラ研が北大の大翼の下で今日の世界情勢が必要としているユーラシア研究を追求し、その研究成果が世界問題の解決に導くよう願って止みません。

Profile

元ハーバード大学正教授・カリフォルニア大学ロサンゼルス校名誉殊勲教授・現研究教授

北大フロンティア基金 ［令和7年度の概要］

北大フロンティア基金は、平成18(2006)年、本学創基130年を期に、教育研究の一層の充実と自主性・自立性を発揮する大学としての使命を果たすために創設され、多くの方々からのご寄附に支えられています。令和7(2025)年度、北大フロンティア基金には、皆様の本学へのご理解と温かいご支援により約34.4億円の寄附を賜りました。心よりお礼を申し上げます。皆様からのたくさんのご寄附は、奨学金制度の充実や留学生への支援、研究活動、各学部の活動等、寄附の目的に沿って活用させていただきます。

北大フロンティア基金創設時からの累計	
申込件数	60,400 件
受入金額	11,805,010,537 円
(うち運用利息 407,188,934円)	

令和7年度の受入	
申込件数	6,639 件
受入金額	3,468,962,288 円
(うち運用利息 32,998,842円)	

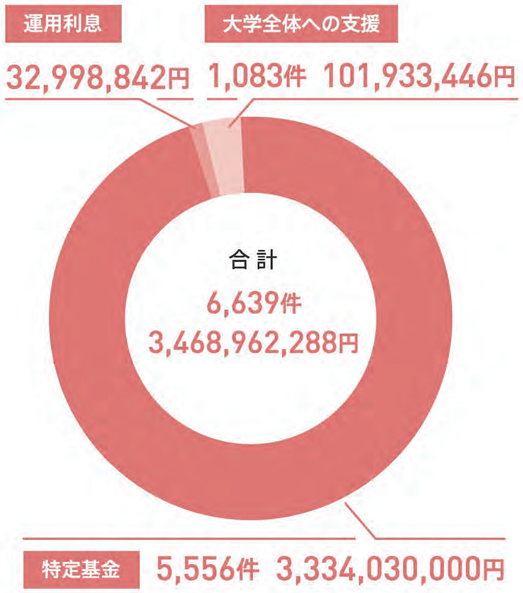
※本学では、基金を含む余裕資金の運用収益を一体的に管理しています。運用収益は基金に繰り入れるものと、基金の持続的な成長を目的として再投資するものに区分しており、本報告書の「運用利息」には運用収益のうち基金へ繰り入れた額を計上しております。

受入状況

受入金額(令和7年度)

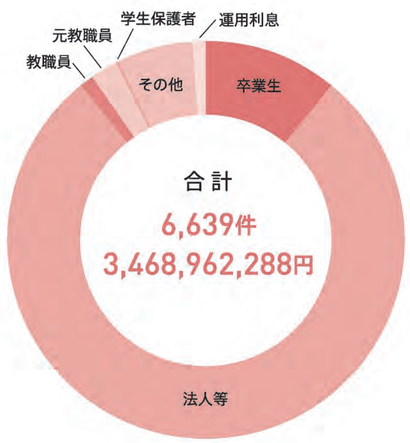
特定基金の内訳

150周年特定記念事業	210件	488,509,172円
学生支援	1,619件	113,272,626円
研究支援	87件	11,178,000円
社会貢献活動支援	4件	123,000円
学部等支援	3,180件	862,045,425円
施設・環境整備支援	57件	300,683,000円
新渡戸カレッジ支援	25件	2,164,000円
国際連携支援	29件	128,777円
卒業生との連携支援	2件	3,945,000円
産業界との連携支援	1件	10,000円
修学基金	255件	45,248,500円
ポスドク等研究者支援基金	84件	5,722,500円
その他	3件	1,501,000,000円



寄附者別内訳(令和7年度)

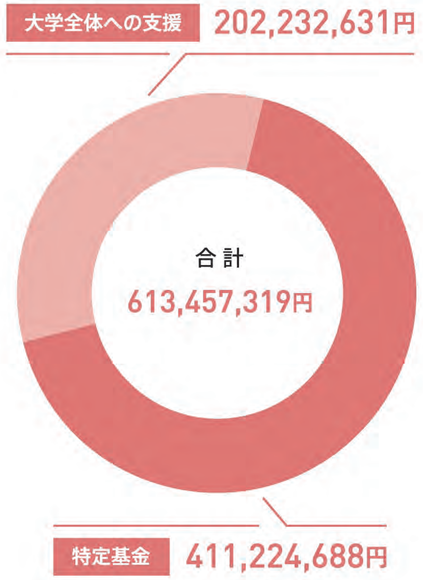
卒業生	2,386件	377,715,204円
法人等	459件	2,716,012,783円
教職員	1,285件	38,266,486円
元教職員	241件	80,019,318円
学生保護者	496件	13,636,523円
その他	1,772件	210,313,132円
運用利息		32,998,842円



支出状況(令和7年度)

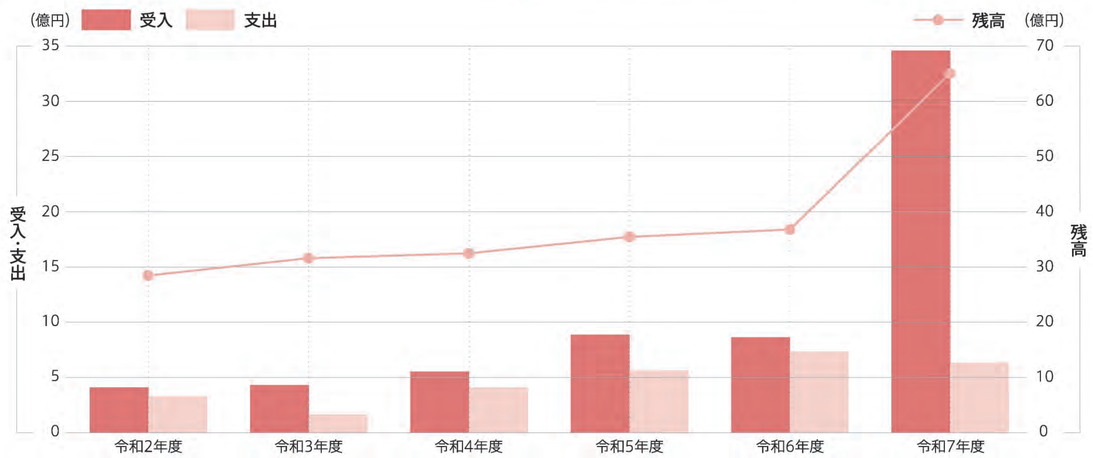
特定基金の内訳

150周年記念事業	1,256,482円
学生支援	113,218,637円
研究支援	6,024,693円
社会貢献活動支援	0円
学部等支援	266,494,358円
施設・環境整備支援	546,700円
新渡戸カレッジ支援	12,388,000円
国際連携支援	9,060,000円
卒業生との連携支援	1,221,000円
産業界との連携支援	0円
修学基金	0円
ポスドク等研究者支援基金	870,888円
その他	143,930円



受入・支出累計額の推移

令和7年度末 残高 6,584,314,855円



※上記、受入・支出累計額には、運用利息を含みます。

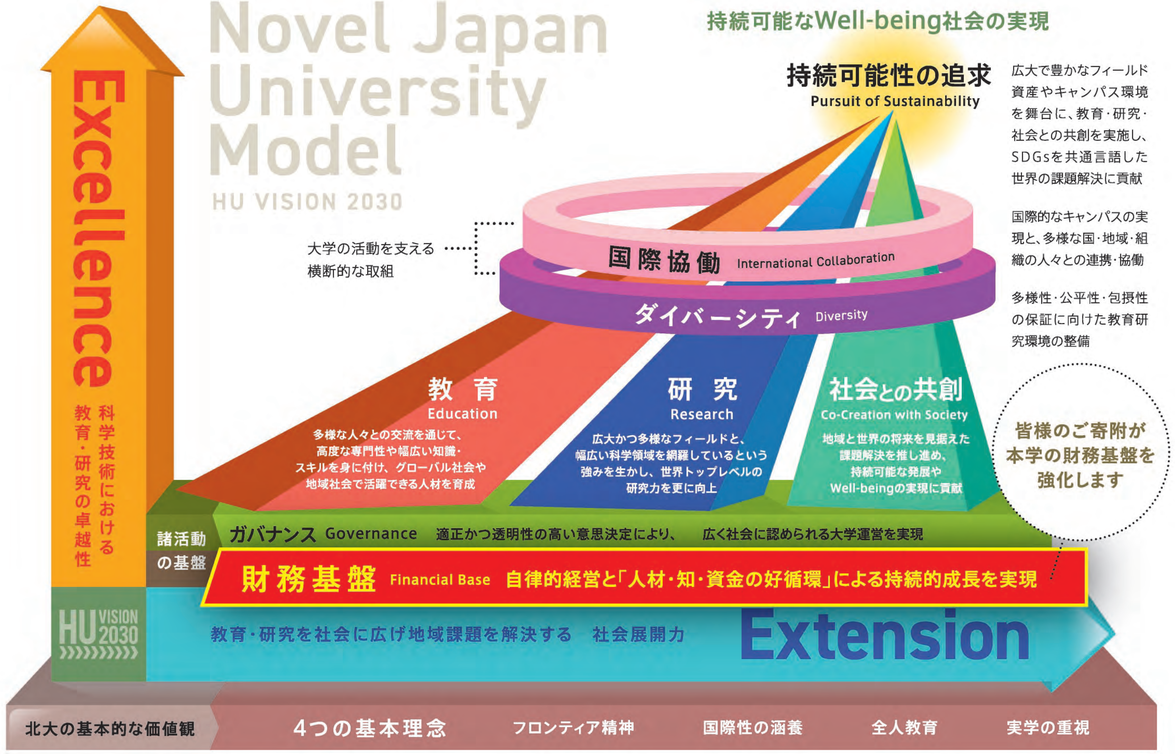
創基150周年記念募金

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えました。
2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として装いを新たにし、特別なメニューをご用意しています。

目標金額 50億円

大学全体への支援

北海道大学は、次の150年に向けてExcellenceとExtensionという2つの軸に基づいて、持続可能なWell-being社会の実現を目指しています。そのために、「大学全体への支援」としていただいた寄附は、①グローバル社会や地域社会で活躍できる人材育成、②世界トップレベルの研究力のさらなる向上、③地域と世界の課題解決の推進といった北大らしい取り組みを実施・継続するための原資として活用させていただきます。



大学全体への支援 申し込みページ https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=1

特定記念事業を応援する

1 人材育成事業

もっと学びたい、社会の最前線で活躍したい学生に特別な教育を提供

地域社会や世界をフィールドにしたアンビシャス教育を展開。未来社会の開拓者（イノベーション・フロントランナー）を育成します。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11601

2 こども本の森事業

こどもたちに、多様な本と出会い創造力や好奇心を育む機会を

自然豊かな環境の中で、こどもたちが自分だけの大切な一冊と出会い、新たな世界に触れられるようサポートします。

※こども本の森とは世界的建築家の安藤忠雄氏が、ご自身が設計・建築費を負担して自治体に寄贈しているこどものための図書施設です。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11603

3 古河講堂の改修・利活用事業

新（あたらしさ）と古（いにしえ）の融合

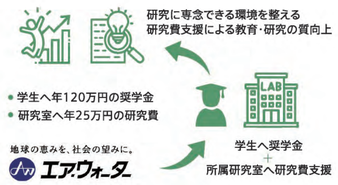
国の有形文化財として保全されている古河講堂を北海道の農林水産業、暮らし、経済・物流の基盤を強靭化し、安全・安心な流域圏の創出を目指す「広域複合災害研究拠点」として再生させます。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11602

企業のご寄附で実施した事業例

エア・ウォーター協働教育研究支援プログラム

本学学生に対して研究に専念できる環境を整える給付型奨学金や研究費をエア・ウォーターが寄附し、優秀な人材の育成、研究の質向上を図るとともに、我が国及び世界の発展を目指します。本学修士課程に在籍する学生を対象とし、5年間で合計15名に支援します。



北大・日立協働教育研究支援プログラム

本プログラムは、社会課題解決に貢献できる高度な技術の研究開発に取り組む人財を育成するために、優秀な学生の博士課程進学を促し、研究に専念できる環境を整える給付型奨学金プログラムです。本学博士課程に在籍する最大9名の学生を対象としています。

支援事業一覧

創基150周年記念事業のほかにも、学部・研究院単位の教育研究活動支援、学生の修学支援や課外活動支援、環境整備支援など、多様な支援メニューをご用意しております。

学部・大学院等を応援する

◆ 学部等支援

ご指定いただいた「学部（大学院）」「学科（専攻）」「研究室（講座）」「附属施設」等の研究・教育環境充実を図ります。

医学部

工学部

理学部

農学部

学生を応援する

◆ 学生支援

奨学金制度・顕彰制度のほか、課外活動・学生福利厚生施設等のさらなる充実を図ります。

◆ 修学支援（税額控除対象）

意欲と能力のある学生が経済的理由で修学・進学を断念することなく、希望する教育を受けられるよう支援します。

◆ 新渡戸カレッジ支援

グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指す特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を支援します。

国際連携を応援する

◆ 国際連携支援

多様な国・地域・組織の人々との連携・協働を支援します。

研究者を応援する

◆ 研究支援

若手研究者の基礎研究を支援します。

◆ ポスドク等研究者支援（税額控除対象）

学生または不安定な雇用状態にある研究者（ポスドク等研究者）が安心して研究を続けられるよう支援します。

キャンパスの維持・保全を応援する

◆ 施設・環境整備支援

キャンパス緑化の他、札幌農学校第2農場等、歴史的建築物を後世に伝える取り組みを支援します。

卒業生連携を応援する

◆ 卒業生との連携支援

卒業生同士の交流や新たな出会いの機会創出を支援します。

社会貢献活動を応援する

◆ 産業界との連携支援

教育研究環境を活用した産業界との連携強化を図ります。

◆ 社会貢献活動支援

学術研究と教育成果の公開促進、市民公開講座等の充実を図ります。

クラウドファンディング

プロジェクト進行中

第3弾！世界のクマ研究最前線 地球の未来をクマの生態から読み解く

◎ モンゴルにて世界的に希少価値の高い「ゴビグマ」の生態調査を行いました。

◎ ネパール・ポカラにおいて「Annapurna Wildlife Conservation Symposium 2026」を開催し、研究発表を行いました。

◎ スリランカにて未だほとんど明らかにされていない「ナマケグマ」の生態調査を行いました。

◎ 道北の北大中川研究林にて、ヒグマ4頭にGPS首輪を装着しました。

◎ 飼育下ツキノワグマの冬眠について論文発表を行いました。

◎ 普及啓蒙活動として6冊の本を刊行したほか、総合博物館での企画展示、講演、セミナー、サイエンスカフェなど、多数の一般市民向けイベントを行いました。

プロジェクトの最新状況は
こちらからご確認いただけます ▶

フォトニクスで歯を守る！「見える化」で細菌と戦う新しい歯科保存

◎ フォトニクスを基盤とした「う蝕」治療の教育プログラム実施に向けて、歯科用マイクロスコープおよび口腔内カメラを導入しました。

◎「う蝕」細菌を高精度に同定するプローブの開発を進め、学会発表を行いました。

プロジェクトの最新状況は
こちらからご確認いただけます ▶

仲間と共に紡いだ音楽で、勇気と感動を届けたい！ ～北大交響楽団～

◎ 2025年11月3日（月・祝）に札幌コンサートホールkitaraにて第150回記念定期演奏会を開催しました。

◎ 本指揮としてプロの下野竜也先生をお迎えし、マーラーの交響曲第5番に挑戦しました。

◎ 当日はホールの座席の9割以上が埋まり、多くのお客様に北大交響楽団の音楽をお届けすることができました。

プロジェクトの最新状況は
こちらからご確認いただけます ▶

北海道大学は、2022年9月12日、日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービスを運営するREADYFOR 株式会社と業務提携を開始しました。2025年度は、前年度から募集を継続していたものを含め5件のプロジェクトが目標金額を達成しました。応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。プロジェクトの進捗状況については、READYFORのWEBサイト内にあります、各プロジェクトの「活動報告」ページに随時掲載してまいりますので、是非ご覧ください。国立大学を取り巻く環境が日々変わっていく中、クラウドファンディングを通して本学の社会的使命を真摯に伝えることで、卒業生、関係者ばかりでなく、地域住民の皆様、企業の皆様から、知の拠点として、本学をより身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

2026年度プロジェクト開始

「人間とは何か？」を学際的に問い直す –CHAIN異分野融合教育支援

◎ AIや脳科学が急速に発展するなか、「人間とは何か」「社会はどこへ向かうのか」という問いが、哲学と科学の双方にとって重要な課題となっています。

◎ CHAINは、哲学・人文学と脳科学・AIをつなぎ、科学的思考と人文学的洞察を備え、分野を越えて未来を切り拓く人材を育成します。

◎ このクラウドファンディングの支援によって、サマースクールやウィンタースクール、学際的なセミナー・ワークショップ、学生への研究支援などを行い、分野を越えて学び、研究する場を継続・発展させていきます。

プロジェクトの最新状況は
こちらからご確認いただけます ▶

北海道の医療の未来を担う、若き人材育成プロジェクトにご寄附を。

◎ 医学部の1、2年生を対象に、夏休みなどを利用して道内各地（帯広、釧路、函館など）の医療機関へ派遣する「フィールド研修」を行います。地域医療のリアルな現場、そこで働く医師の生活、そして何より地域の温かさや魅力を肌で感じてもらいます。

◎ 道内の高校生向けに北海道大学病院の臨床現場を見学・体験できるセミナーを開催します。手術室の見学などを通じて、医学への興味を深め、将来の北海道医療を担う人材が生まれる「きっかけ」を創ります。

◎ 本学の若手教員が、道内の中学校・高校へ直接うかがい、医療や医学の面白さを伝える出前講座を実施します。地域に根差した人材育成を目指し、医師という職業の魅力を直接伝えます。

プロジェクトの最新状況は
こちらからご確認いただけます ▶

寄附申込方法

郵便振替・銀行振込によるご寄附

北大フロンティア基金の「払込取扱票（振込通知書）」をご利用ください。

ゆうちょ銀行・郵便局（口座振替・現金による払込）

口座振替による「払込手数料」は、本学が負担いたします。詳しくは、ゆうちょ銀行・郵便局窓口でご確認ください。

銀行振込

銀行窓口をご利用の場合は、振込金額とは別に振込手数料を寄附者様にご負担いただくこととなりますのでご留意ください。北洋銀行・北海道銀行の窓口をご利用の場合は、振込金額に関わらず振込手数料として、1 件あたり110 円を寄附者様にご負担いただきます。なお、現金自動預金支払機（ATM）やネットバンキングをご利用の場合は、寄附者様の特定が困難となりますので、できる限り金融機関の窓口をご利用いただくか、お手続き前に、北大フロンティア基金ホームページの「寄附申込フォーム」よりご連絡、または「寄附申込書」をダウンロードのうえ、必要事項を記入し、メール、FAX、郵送のいずれかの方法でお送りください。

クレジットカード決済によるご寄附

クレジットカード決済でお申込いただいた場合は、ご指定のカードにて自動引き落しをさせていただきます。寄附回数は、「毎月」「年2 回」「年1回」「1回限り」から選択いただくことができます。申し込みから着金まで1～2カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

コンビニ決済によるご寄附（個人 法人・団体）

コンビニ決済でお申込いただいた場合は、後日、決済代行業者より、コンビニエンスストア収納用のバーコード付払込取扱票を送付いたします。お手元に届きましたら、お近くのコンビニエンスストアに払込取扱票をご持参いただき、現金にてお支払い下さい。窓口でのお支払いから着金まで1カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

PayPayによるご寄附

PayPayをご利用の場合は、初回アクセス時にPayPayへのログインが必要です。寄附者様ご本人名義のアカウントで手続きをお願いいたします。申し込みから着金まで1カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

北大フロンティア基金寄附申込ページはこちらから　個人の方 ▶　法人・団体の方 ▶

税制上の優遇措置

個人からのご寄附

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金（所得税法第78条第2項第2号）として財務大臣から指定されております。

1 所得税が控除されます。

寄附金額（その年の総所得金額の40％を上限）から2,000円を引いた額を、所得税の課税所得金額から控除できます。「修学支援」及び「ポスドク等研究者支援」にご寄附の場合は、下記の「所得控除」または「税額控除」いずれか一方の有利な制度をご選択いただけます。

《税控除のしくみ》

所得控除制度（北海道大学へのすべての寄附金が対象）
所得控除を行ったあとに所得税率を乗じるため、所得金額に対して寄附金額が大きい場合には減税効果が大きくなります。

（寄附金額※1 －2,000円）×（所得に応じた）税率
→課税所得金額から控除

税額控除制度
（「修学支援基金」及び「ポスドク等研究者支援」への寄附金が対象）
所得税率に関係なく所得税額から直接寄附金額の一定割合額が控除されるため、多くの場合、所得控除制度に対して減税効果が大きくなります。

（寄附金額 ※1－2,000円）×40％＝控除対象額※2
→所得税額から控除

※1 控除対象となる寄附金額は、その年の総所得額等の40％が上限となります。
※2 所得税の控除額は、その年の所得税額の25％が上限となります。

寄附金控除
シミュレーション ▶

2 住民税が控除されます。

寄附をした翌年1月1日に本学を「寄附金税額控除対象法人等」として指定している地方自治体にお住まいの方は、寄附金額（その年の総所得金額の30％を上限）から2,000円を引いた額に対し、都道府県民税は4％、市区町村民税は6％を乗じた額が控除されます。（都道府県と市区町村双方の指定を受ける場合は10％となります。）

寄附金控除を受けるための手続き等について

寄附金控除を受けるためには、所轄の税務署へ所得税の確定申告書を提出してください。この場合、住民税の申告は不要です。確定申告をしない給与所得者又は年金所得者で、住民税の寄附金税額控除だけを受けようとする場合は、住所地の市区町村に申告してください。この場合、所得税の控除は受けられません。

法人によるご寄附（法人税の優遇）

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、法人税法上の全額損金算入を認められる寄附金（法人税法第37条第3項第2号）として財務大臣から指定されております。ご寄附をいただいた寄附金は、法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

遺贈について

将来ご自身が遺される財産を本学の発展のために役立ててほしいとのお申し出をいただく機会が増えております。本学では、皆様のご意思をお預かりし、次の世代へとおつなぎするため、北大フロンティア基金を通じての「遺贈」についてご案内しております。皆様の想いを確実に後世に残すため、本基金が皆様の将来設計の一助となりますと幸いです。

遺贈寄附の流れ（ご生前）

1 遺言によるご寄附について卒業生・基金室へご相談ください

2 遺言執行者をご指定いただきます

遺産の引渡しや登記などの手続きを行うときに、法律や財務、不動産登記などの知識が求められることがあるため、遺言執行者には弁護士、司法書士、行政書士、信託銀行などの専門家を指定されるケースが多いようです。

本学では下記の銀行・信託銀行と協定を結んでおりますので、お気軽にご相談ください。

北大フロンティア基金が提携している銀行・信託銀行	●三井住友銀行　●三井住友信託銀行　●三菱UFJ 信託銀行　●北洋銀行

3 遺言書の文言表記について確認がある場合がございます

法的に有効で執行できる遺言書を作成するため、遺言執行者から北海道大学に対して、遺言書の文言表記などについて確認が行われることがあります。

※ご本人の了承なく、遺言者の個人情報を遺言執行者と北海道大学の間で共有することはありません。

4 遺言書を作成いただきます

民法で定められた代表的な方法として、「公正証書遺言」と「自筆証書遺言」の２種類があります。相続時のトラブルを防止し、遺言の内容をより確実に実現するためには、「公正証書遺言」の作成をおすすめします。

5 遺言保管中のご連絡について

遺言書の書き換えや転居などがございましたら、卒業生・基金室までご連絡ください。

遺贈寄附の流れ（ご逝去後）

6 遺言執行者へご逝去のお知らせをいただきます

遺言執行者にご逝去のお知らせが届くことで、遺言の執行が開始されます。お知らせがない場合は遺言書のご意思が実現されなくなるおそれがありますので、遺言執行者とご相談の上、ご家族や信頼できる方などから通知人を選び、あらかじめ遺言執行者へ連絡する手順を確認しておくことをお勧めします。

7 遺言書の開示があります

8 遺言執行と財産の引渡しがおこなわれます

北海道大学に遺贈いただいた財産には
相続税が課税されません

「遺贈のご案内」パンフレットの
請求はこちらから ▶

寄附者の皆様への御礼

称号の贈呈

これまでのご寄附累計金額をもとに、次の称号を贈呈いたします（個人のみ）。

北海道大学
エクセレントビジョナリースポンサー
累計5,000万円以上のご寄附

北海道大学
ビジョナリースポンサー
累計1,000万円以上のご寄附

※累計の起算は北大フロンティア基金創設時（平成18年）からとなります

称号贈呈者への特典	記念盾の贈呈	入学式、卒業式などの本学公式行事へご招待

銘板の掲出

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます（個人・法人共通）。

Plate Type

プレミアムゴールド
累計1億円以上のご寄附

ゴールド
累計1,000万円以上のご寄附

シルバー
累計500万円以上のご寄附

ブロンズ
累計100万円以上のご寄附

※既存の銘板（ホワイト）は累計20万円以上が対象です

「150アニバーサリーサポーター」記念品

創基150周年記念募金期間中（令和5年3月1日～令和9年3月31日）に1回50万円以上のご寄附を賜った方には「150アニバーサリーサポーター」として記念品を贈呈します（個人のみおひとり様1回限り）。

Tシャツ

＋

バッジ

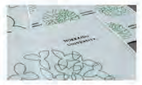
＋

ペンケース、IDホルダー、ポーチ（いずれかひとつ）

その他の御礼

御礼	個人	法人
レザートレイ	10万円以上	
マルチクロス	1万円以上10万円未満	
広報誌へのご芳名掲載	掲載を希望されるすべての寄附者 北大クラウドファンディングへのご寄附については掲載しておりません。	

このほか、寄附使途に応じて、各学部にて特典をご用意している場合がございます。



紺綬褒章の伝達

横山 清 様
発令：令和7年3月26日
伝達：令和7年7月2日

一般財団法人砂防・地すべり技術センター 様
発令：令和7年3月26日
伝達：令和7年9月12日

伊藤 獻一 様
発令：令和7年8月27日
伝達：令和7年11月27日

吉田 広志 様
発令：令和7年7月30日
伝達：令和7年12月24日

寺崎 善次郎 様
発令：令和7年11月29日
伝達：令和8年3月13日

齋藤 和雄 様
発令：令和8年1月24日
伝達：令和8年3月13日

郵送による伝達 ｜ 矢ヶ崎 啓一郎 様（発令：令和7年6月21日）、清末 数仁 様（発令：令和7年9月27日）

※紺綬褒章は、公益のために私財（個人の場合500万円以上、法人の場合は1,000万円以上）を寄附した方に国から褒章を授与する制度であり、国及び地方公共団体の他に指定された「公益財団」も対象となります。本学では、平成29年11月以降の対象者に対し、ご意向を伺い推薦を行っています。

感謝状の贈呈

認定特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所 様（令和7年4月8日）

株式会社グローバルアローズ 様
（令和7年4月14日）

真屋 幹雄 様
（令和7年4月16日）

株式会社北洋銀行 様
（令和7年4月18日）

株式会社データ設計 様
（令和7年4月28日）

北海道厚生農業協同組合連合会 様
（令和7年5月22日）

株式会社アミノアップ 様
（令和7年8月22日）

一般財団法人砂防・地すべり技術センター 様
（令和7年9月12日）

横山 オルガ 恒子 様
（令和7年9月17日）

株式会社ムトウ 様
（令和7年9月24日）

株式会社北海道シジシー 様/
一般社団法人北海道CGC
みどりとこころの基金 様（令和7年9月25日）

加藤 元 様
（令和7年10月5日）

合同会社石川会計 様
（令和7年10月9日）

アジア航測株式会社 様
（令和7年10月15日）

渡辺 昭 様
（令和7年11月13日）

株式会社ケアネット 様
（令和7年12月11日）

株式会社トーア 様
（令和7年12月16日）

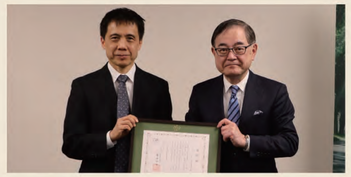
株式会社メディカルシステムネットワーク 様
（令和8年1月15日）

伊古田 俊夫 様
（令和8年2月6日）

株式会社シルバーバックス・プリンシパル 様
（令和8年2月12日）

數土 文夫 様
（令和8年2月12日）

服部 博太郎 様、服部 雅子 様
（令和8年2月13日）



キーサイト・テクノロジー株式会社 様
（令和8年2月16日）

株式会社三井住友フィナンシャルグループ 様
（令和8年3月6日）

齊藤 誠一 様
（令和8年3月26日）

贈呈式を実施できなかった方々につきましては、感謝状を郵送にてお届けしたため、ご芳名のみの掲載とさせていただきます。

髙橋 芳男 様、山本 惇 様、須藤 和昌 様

※（）内の日付は贈呈日

札幌農学校　北海道コンフェクト株式会社

HOKKAIDO UNIVERSITY CRAFT GIN
1876 MEMORY OF POPLAR
株式会社中村プロモーション

【北海道大学×香貴】まるごと道産素材
株式会社香貴

様々な認定商品を通じて、多くの企業様から継続的なご支援をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

表紙写真 こども本の森札幌・北大

北海道大学 社会共創部広報課 卒業生・基金室
〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 百年記念会館内
Tel 011-706-2017　E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp
Fax 011-706-2010　Web https://www.hokudai.ac.jp/fund/

北海道大学 東京オフィス
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー10階
TEL/FAX 03-3211-2055

令和8(2026)年9月発行